

○課題シート＜支部記載欄＞

資料8

※データヘルス計画に記載がある場合は、該当箇所より転記してください

	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状評価シート等より、他支部との比較や時系列比較を行い、自支部特有の課題を抽出してください。 ・課題は複数記載し、5つ以上ある場合は行を追加してください。
1	<p>内分泌、栄養及び代謝疾患（糖尿病）の医療費が入院、入院外とも地域差指数プラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に入院外の地域差指数は過去10年以上高止まりが続いており徳島県の積年の課題である。 入院では、特に50代以降の医療費が高い傾向。 入院外では、若年層である20代から医療費が高い傾向。 ・入院外における業態別一人当たり医療費で寄与度の高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業 ・健診結果における業態別リスク保有率で代謝リスクの寄与度が高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業
2	<p>循環器系の疾患（高血圧）の医療費が地域差指数プラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に入院外の高血圧症疾患について地域差指数が高い傾向。 ・業態別一人当たり医療費で寄与度の高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業 ・健診結果における業態別リスク保有率で血圧リスクの寄与度が高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業
3	<p>時間外受診について初診・再診とも地域差指数が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの年間加算点数について、加入者数で倍以上ひらきのある兵庫や岡山と同程度である。 ・診療行為別にみると「夜間」「早朝」加算が多い。 ・受診時の疾病をみると「アレルギー性鼻炎」「目の屈折調整障害」の順に多い。 ・医療機関所在地別でみると徳島市が県内全体の半数を占めている。
4	<p>新生物（肺がん）＋喫煙習慣の割合が高い特徴をもつ業態が存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生物を疾病中分類＋業態別でみていくと、「肺がん」＋「総合工事業」、「肺がん」＋「社会保険・社会福祉・介護事業」の組み合わせが全国と比較して医療費が高い。 ・また「総合工事業」の男性、「社会保険・社会福祉・介護事業」の女性について喫煙習慣の割合が徳島支部平均より高い。

○重点施策シート＜支部記載欄＞

※データヘルス計画に記載がある場合は、該当箇所より転記してください

※複数ある場合は、シートをコピーしてください。

<p>①課題 ※課題シートより転記</p>	<p>内分泌、栄養及び代謝疾患（糖尿病）の医療費が入院、入院外とも地域差指数プラス</p> <ul style="list-style-type: none">・特に入院外の地域差指数は過去10年以上高止まりが続いており徳島県の積年の課題である。 入院では、特に50代以降の医療費が高い傾向。 入院外では、若年層である20代から医療費が高い傾向。・入院外における業態別一人当たり医療費で寄与度の高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業・健診結果における業態別リスク保有率で代謝リスクの寄与度が高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業
<p>②これまでの取組と評価</p>	<p>[取組] ・本部と連携し課題に対する深堀分析を実施した結果、対象とすべき年齢層や業態といったターゲットの絞り込みまで行った。</p> <p>[評価] ・上記分析まで実施しており、令和6年度の事業実施に向けて具体的な事業案の検討段階に入っている。</p>
<p>③今後の重点施策とその検証方法</p>	<p>[重点施策] ・糖尿病発症を予防する観点から、寄与度の高い業態および若年層（30代）を中心に、生活習慣病予防健診結果から脂質、代謝リスクが高いグループを抽出し、食生活改善等の個別情報を送りヘルスリテラシー向上を目指す。 ・特定保健指導の利用勧奨を複数回実施し、重症化を未然に防ぐ。 ・業界団体や労働局等の関係団体と連携し、事業主からリスク保有者へ早期受診などの勧奨をを行っていくよう働きかける。</p> <p>[検証方法] ・送付対象が所属する属性の医療費の経年変化を分析し、PDCAを回していく。</p>

○重点施策シート＜支部記載欄＞

※データヘルス計画に記載がある場合は、該当箇所より転記してください

※複数ある場合は、シートをコピーしてください。

<p>①課題 ※課題シートより転記</p>	<p>循環器系の疾患（高血圧）の医療費が地域差指数プラス</p> <ul style="list-style-type: none">・特に入院外の高血圧症疾患について地域差指数が高い傾向。・業態別一人当たり医療費で寄与度の高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業・健診結果における業態別リスク保有率で血圧リスクの寄与度の高い業態 総合工事業、医療業・保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業
<p>②これまでの取組と評価</p>	<p>[取組] ・本部と連携し課題に対する深掘分析を実施した結果、対象とすべき年齢層や業態といったターゲットの絞り込みまで行った。</p> <p>[評価] ・上記分析まで実施しており、令和6年度の事業実施に向けて具体的な事業案の検討段階に入っている。</p>
<p>③今後の重点施策とその検証方法</p>	<p>[重点施策] ・高血圧から生じる心疾患、脳血管障害を予防する観点から、寄与度の高い業態および若年層（30代）を中心に、生活習慣病予防健診結果から血圧リスクが高いグループを抽出し、食生活改善等の個別情報を送りヘルスリテラシー向上を目指す。 ・特定保健指導の利用勧奨を複数回実施し、重症化を未然に防ぐ。 ・業界団体や労働局等の関係団体と連携し、事業主からリスク保有者へ早期受診などの勧奨ををやっていくよう働きかける。</p> <p>[検証方法] ・送付対象が所属する属性の医療費の経年変化を分析し、PDCAを回していく。</p>

○重点施策シート＜支部記載欄＞

※データヘルス計画に記載がある場合は、該当箇所より転記してください

※複数ある場合は、シートをコピーしてください。

<p>①課題 ※課題シートより転記</p>	<p>時間外受診について初診・再診とも地域差指数が高い</p> <ul style="list-style-type: none">・1人当たりの年間加算点数について、加入者数で倍以上ひらきのある兵庫や岡山と同程度である。・診療行為別にみると「夜間」「早朝」加算が多い。・受診時の疾病をみると「アレルギー性鼻炎」「目の屈折調整障害」の順に多い。・医療機関所在地別でみると徳島市が県内全体の半数を占めている。
<p>②これまでの取組と評価</p>	<p>[取組]</p> <ul style="list-style-type: none">・本部と連携し課題に対する深掘分析を実施した結果、対象とすべき地域の絞り込みまで行った。・上手な医療のかかり方の広報として、メールマガジン等で時間外加算に対する周知広報を実施。 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none">・掲載にかかる効果分析や、アクセス数の分析は行っていない。
<p>③今後の重点施策とその検証方法</p>	<p>[重点施策]</p> <ul style="list-style-type: none">・医療機関所在地別での分析より徳島市が最も多いことから、徳島市内の加入者に対し、上手な医療のかかり方を示した情報提供を実施しヘルスリテラシー向上を目指す。・徳島県や徳島市等の関係団体と連携し、県全体での取り組みとなるよう共同広報を実施する。 <p>[検証方法]</p> <ul style="list-style-type: none">・時間外受診率の経年変化を分析し、PDCAを回していく。

○重点施策シート＜支部記載欄＞

※データヘルス計画に記載がある場合は、該当箇所より転記してください

※複数ある場合は、シートをコピーしてください。

<p>①課題 ※課題シートより転記</p>	<p>新生物（肺がん）＋喫煙習慣の割合が高い特徴をもつ業態が存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生物を疾病中分類＋業態別でみていくと、「肺がん」＋「総合工事業」、「肺がん」＋「社会保険・社会福祉・介護事業」の組み合わせが全国と比較して医療費が高い。 ・また「総合工事業」の男性、「社会保険・社会福祉・介護事業」の女性について喫煙習慣の割合が徳島支部平均
<p>②これまでの取組と評価</p>	<p>[取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部と連携し課題に対する深堀分析を実施した結果、対象とすべき年齢層や業態といったターゲットの絞り込みまで行った。 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記分析まで実施しており、令和6年度の事業実施に向けて具体的な事業案の検討段階に入っている。
<p>③今後の重点施策とその検証方法</p>	<p>[重点施策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的に肺がんが発症するまで20年程度の期間があることを考慮し、肺がん発症の危険因子である喫煙習慣をもつものの割合を減少させるため、20～49歳をターゲットとし、生活習慣病予防健診結果から脂質、代謝リスクが高いグループを抽出し、禁煙によるメリットや禁煙方法に関する個別情報を送り行動変容を促す。 ・特定保健指導の利用勧奨を複数回実施し、重症化を未然に防ぐ。 ・業界団体や労働局等の関係団体と連携し、事業主からリスク保有者へ早期受診などの勧奨をを行っていくよう働きかける。 <p>[検証方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送付対象が所属する属性の医療費の経年変化を分析し、PDCAを回していく。